

提言の方向性について

1 調査審議事項1「文化芸術振興におけるICTの活用による情報発信の強化」について

提言：ICTの活用により新宿フィールドミュージアムの情報発信を強化するとともに、多様な主体と連携し来街者向けの発信力を高めていくこと

新型コロナウイルス感染症により文化芸術活動は多大な影響を受けましたが、文化芸術活動の各主体は（有料）動画配信やクラウドファンディングなどの新たな手法を活用し、コロナ禍においても活動の継続に取り組みました。

新宿区文化芸術振興会議第6期（前期）の調査審議事項「新しい生活様式を見据えた文化芸術振興におけるICTの活用」について、第7期においても継続して審議することとしましたが、新型コロナウイルス感染症の感染症上の位置付けが2類から5類に変更され、文化芸術活動がコロナ禍以前の活動状況を取り戻しつつあることを受け、調査審議事項を「文化芸術振興におけるICTの活用による情報発信の強化」と改め、審議を進めました。

その過程において、新宿フィールドミュージアムは核になるので、その中にICTも組み込んでいくという意見がありました。

新宿区では、新宿区文化芸術振興会議（第1期）の提言に基づき、平成23年から「新宿フィールドミュージアム」事業を実施しています。

新宿フィールドミュージアムは、多様な文化芸術活動が行われている新宿のまちをミュージアムに見立てて、文化芸術活動に関するイベント、施設等を集約して広く発信していくことで、賑わいの創出や文化芸術の振興を進める事業で、ガイドブック、チラシ、ポスター等の紙媒体のほか、公式サイト、専用SNS、動画配信等のICTを活用して、区内外に新宿区の文化芸術について幅広く情報発信を行ってきました。

この新宿フィールドミュージアムについては、審議において次のような点が指摘されました。

(1) 公式サイトについて

- ・利用が少ない
- ・掲載される情報が少ない
- ・イベント情報の見せ方が悪い（分野別ではなく、地域別での表示となっている。）
- ・使い勝手が悪い

(2) 公式SNSについて

- ・フォロワーが少ない
- ・発信量が少ない

(3) 新宿フィールドミュージアムの活動の充実

- ・新宿フィールドミュージアムへの参加の呼び掛けを強化する必要がある。
- ・新宿フィールドミュージアム参加団体の参加意識や活動意欲を高める必要がある。
- ・新宿観光振興協会や、商店会等地域団体などとの連携の強化

こうした課題について、ICTの活用で改善を図ることにより、新宿フィールドミュージアム事業の更なる充実につなげていくことができます。

また、こうした取組みが新宿フィールドミュージアムへのアクセスを向上させ、多くの方々の文化芸術体験への参加を促し、文化芸術団体の参加意識を向上させ、公式サイト、SNSの情報量の増加につながり、情報発信量が増加し、これが公式サイトやSNS等へのアクセス増加につながるというような好循環を作り上げることとなります。

以上から、ICTの活用により新宿フィールドミュージアムの情報発信を強化するとともに、多様な主体と連携し来街者向けの発信力を高めていくことを提言します。

【具体的な取組みの方向性】

- ・公式サイトの見易さの向上（イベントの表示を地域別から分野別へ等）
- ・必要な情報が探しやすくなるように公式サイト内の検索機能の強化
- ・観光情報等の関連情報の充実
- ・周辺情報（飲食店等）の表示
- ・公式SNSの情報発信の強化

2 調査審議事項2 「(新宿区全体への展開を見据えた) 新宿駅周辺地域を中心とする地域の文化芸術活動主体の連携の促進」について

提言：公共的空間が、ハード的にもソフト的にも文化芸術活動が行いやすくなるような空間となるように開発事業者に働きかけるとともに、そのような公共的空間を活用した各地域の文化芸術活動主体の連携を促進すること

新宿駅周辺等で再開発が進んでいますが、その中では広場等の公共的空間が整備される計画です。

海外の事例をみても、公共空間で様々なパフォーマンスが行われ、アーティストに活動の場を与え、観客を呼び込み、賑わいを創出しています。

日本においても、大都市における文化的まちづくりが意識されてきています。新宿駅周辺の再開発は、民間企業等が主体になりますが、まちの賑わいや今後の将来展望等も踏まえた再開発が行われると思われるので、そこに文化的な要素を入れ込んでもらうことが大切です。

そのため、公共的空間が、ハード的にもソフト的にも文化芸術活動が行いやすくなるような空間となるように開発事業者に働きかけるとともに、そのような公共的空間を活用した各地域の文化芸術活動主体の連携を促進する取組みを進めることを提言します。